

歴史は未来の羅針盤



『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」、および第五巻「文化財編」は、各公民館や教育委員会において一冊四、〇〇〇円（税込み）で販売中です。ぜひお買い求めください。また、第六巻「民俗編」の予約も受け付け中です。

## 伝統文化継承の努力

『近江日野の歴史』『民俗編』を刊行するため、民俗学の専門家により、平成16年より町内各地の風習や祭り、行事などの民俗文化について調査が進められました。その成果は民俗編の内容に反映されることとなりますが、ここではその過程で明らかとなった民俗行事の実情についてご紹介します。

8月の盆には先祖の霊が帰ってくるため、寺院や家庭では先祖供養のためのさまざまな行事が行われます。その代表ともいえるオショウライサンなどと呼ばれる先祖の霊を迎えて送る行事（以下、精霊迎え・送りの行事とする）は、一般的に浄土宗や禅宗を信仰する家庭で行われるとされています。しかし、東桜谷地区の全集落と西桜谷・必佐地区などの一部集落では、宗派にかかわらず、集落全体

の行事としてこの行事が行われています。この行事は、集落近くの山上などに竹を高く立て、その根元に竹や木の枝などを積み重ね、それを燃やして大きな火を焚き上げるといふもので、鉦や太鼓を打ち鳴らし、松明の火を山から集落へまたは集落から山へと運ぶ点が特徴です。

精霊迎え・送りの行事はかつて小・中学生の男児だけで行われており、夏休みに入るとその準備に明け暮れていたと聞きます。しかし、少子化が社会問題となり始めた頃から、行事の準備や運営を子供だけですることが困難となり、行事内容が簡略化されたり、大人が手伝ったりするようになりました。さらにここ10年程の間には少子化が急速に進み、大人が行事全般を行わざるを得なくなり、子供はその補助的役割を担うに過ぎなくなってしまうました。なかには

子供の参加は義務ではなく自由となつた地域もあります。子供とは異なり時間等に制約がある大人が中心に行うようになった結果、行事の内容がさらに簡略化されることになってしまいました。

伝統的な民俗行事は、社会環境や生活環境の変化により改変を余儀なくされているのが現状です。本来の意義が忘れ去られ、形骸化してしまつた行事があるのも事実です。しかし一方では、古来の伝統を絶やさず、行事を何とか存続できるように工夫されている地域もあります。例えば、伝統的行事は行事日が定められている場合がありますが、学校や仕事に支障がないように日時が変更されたということがよく聞きます。最近では、

行事の場所までも変更されることが見られるようになりました。精霊迎え・送りの行事に関しては、以前は小高い山の上で行われてい

たものが、近年になって集落に近い広場や川近くに移動されました。このように伝統に根ざした民俗文化は、時代とともに変貌または消失する宿命をもち、それがゆえに「生きた文化」とも言われます。伝統的な民俗行事を廃止してしまうと、復活させることは容易ではありません。地域の人々は多少の変更をしてもその伝統を守るため、苦勞と努力、そして工夫をされています。民俗編では、日野町固有の伝統文化が後世に伝えられることを願いつつ、地域の人々の努力の一端を紹介します。

### お知らせ

民俗編の刊行予定を平成20年7月に延期しましたが、平成20年11月末に再度延期させていただきます。予約いただきました方々には、ご迷惑をおかけしますが、もうしばらくお待ちいただきますようお願いいたします。刊行の準備が整い次第、改めましてご案内いたします。なお、割引特典がある予約申込期限も10月末まで延長いたしますので、是非この機会にお申し込みください。